

2009. 11. 6

本誌連動◦創傷治療の最前線 Vol.5

手術創 シリコンで癒痕が消失

内海 真希=日経メディカル

関連ジャンル： 処置

癒痕をきれいに治す

一方、手術創を適切に処置しても治癒した後に傷跡が赤く盛り上がった状態になることがある。これらは肥厚性癒痕やケロイドと呼ばれる皮膚病変だ。

受傷部位にのみ現れるのが肥厚性癒痕で、周囲の正常な皮膚にまで浸潤するものがケロイドだ。病態はまだ不明だが、創が治癒する過程で線維芽細胞からコラーゲンが異常に分泌されてできると考えられている。どちらも特徴的な外見だけでなく、強いかゆみや痛みを伴うため、患者の苦しみは大きい。

このような肥厚性癒痕やケロイドを予防するには、包帯やサポーターによる圧迫療法を行う。最近、有用性が多く報告されるのは、シリコンジェルシートの「エフシート」「シカケア」などを創部に長期間貼り付ける方法だ（写真2）。

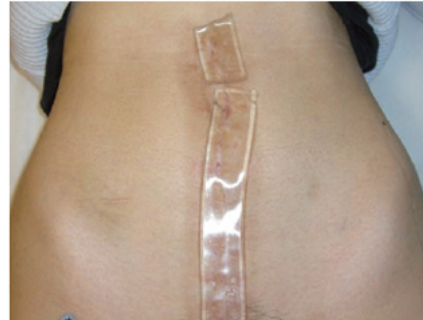
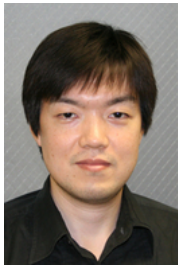


写真2 ケロイドの治療（提供:小川氏）

31歳、女性。小腸切除手術の傷跡からケロイドを生じた。ケロイドを切除後、再縫合し、シリコンジェルシートと電子線照射で再発を予防した。



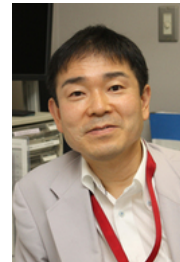
「専門医による手術や電子線照射で、ケロイドの再発を防げるようになった」と話す、日本医大の小川令氏。

「運動性の高い胸部や腹部、肩部、関節部は肥厚性癒痕やケロイドの好発部位。創周辺の皮膚が引っ張られると、発生リスクは高まると考えられる。シリコンジェルシートはその張力を分散させる効果があるのではないかと日本医大形成外科准教授の小川令氏は話す。

シリコンジェルシートは肥厚性癒痕やケロイドを予防するだけでなく、治療する際も有用だという。昭和大形成外科准教授の土佐泰祥氏は「シリコンオイルが充てんされたクッション状の『クリニセル』などは、特に効果が高い。そのほかの保存的療法として、ステロイドの局部注射や、治療薬であるトラニラスト（商品名リザベンほか）の内服、ステロイドの分泌を促進する漢方薬の柴苓湯の内服などを組み合わせて併用することもある」と話す。

肥厚性癒痕やケロイドを外科的に切除する方法もある。「摘出後は縫合面を十分に密着させて皮下縫合と真皮縫合を行い、創面が盛り上がるようにする。表皮は軽く固定する程度にとどめることが、きれいに治すためのポイント」と小川氏は話す。病変部位が拡大するケロイドも、切除後に放射線の一種である電子線を照射すれば、再発を防げるという。土佐氏は、「ケロイドは部位や病期によって性質が変化することを考慮し、患者に合った治療方針を立てるとよい」と話す。

肥厚性癒痕の多くは数年かけて自然と治癒するが、「拘縮を伴ったり、運動制限を来す関節部位の肥厚性癒痕は、早期に専門医へ紹介するべき」と小川氏は話している。



「シリコンクッションは、肥厚性癒痕やケロイドの治療に有用だ」と話す、昭和大の土佐泰祥氏。

本誌連動◦創傷治療の最前線

Vol.1 「消毒せずに創部を保湿」が治療の基本に（10/30）

Vol.2 湿潤療法は落とし穴（10/31）

Vol.3 滲出液の量で被覆材を選択（11/2）

Vol.4 裂傷をきれいに治す一工夫（11/3）

Vol.5 手術創 シリコンで癒痕が消失（11/6）